様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2016
課題番号：２４５３０３９０

研究課題名（和文）１９世紀末ドイツの高質品生産とその労働力基盤に関する地帯構造論的見地からの研究

研究課題名（英文）Research on German's diversified quality production and work force base in the end of 19th century

研究代表者
森　良次（MORI, Ryoji）

広島大学・社会科学研究科・教授

研究者番号：１０３３３９９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：　ドイツの高品質を特徴とするものづくりとそれを支える諸条件（技能養成制度など）は、19世紀末以降本格的に発展する。
　その要因は、しばしば論じられるように手工業制度などドイツ的伝統のなかに求められるのではなく、原材料価格や賃金水準の上昇といった国内生産諸条件の変化と世界市場における国際的競争関係のなかにあった。ドイツ産業にとって輸出は生命線ともいえる重要性を有しており、国際競争に対応した結果が高品質生産の追求とそれを支える技能養成制度の発展であった。

研究成果の概要（英文）：German's diversified quality production and regulatory regime emerged in the end of 19th century and it developed during the inter war era.Some researchers emphasize German's traditional institutions(f.e.the craft profession) as grounds of emergence of diversified quality production.However it came from international rivalry in the world market and change of the domestic conditions for production such as wage increas.

研究分野：ドイツ経済史

キーワード：高質品生産　中小経営

１．研究開始当初の背景

産業革命とその後の工業化過程で中小産業経営は消滅することなく存続し、「産地」を形成することで工場制大工業とならび技術的活力を保持し続けたことが知られるようになった（Sabel,C.F. and J.Zeitlin eds., World of possibilities:flexibility and mass production in western industrialization, Cambridge, Cambridge University Press,1997.）。ドイツ経済史研究においても、アメリカ型大量生産体制とは異なる「多様な高質品生産」とこれを支える社会経済的諸制度の形成過程の究明がすすんでいる（Abelshauser, W., Kulturkampf：Der deutsche Weg in die neue Wirtschaft und die amerikanische Herausforderung, Berlin, 2003（雨宮昭彦、浅田進史訳『経済文化の闘争　資本主義の多様性を考える』東京大学出版会、2009 年））。

そうしたドイツの高質品生産の労働力基盤としては、近代工業内部の労働力編成とそこにおける熟練労働者の基幹的役割がつとに知られており、その場合に熟練労働者の給源としてまず手工業部門が、19 世紀末以降はこれとならび大工業内部の技能養成制度が重要な役割を果たしたことが明らかにされている（Conze, W. u. Engelhardt, U.(Hg.), Arbeiter im Industrialisierungsprozeß：Herkunft, Lage und Verhalten, Stuttgart, 1979；今久保幸生『19 世紀末ドイツの工場』有斐閣、1995 年；田中洋子『ドイツ企業社会の形成と変容－クルップ社における労働・生活・統治－』ミネルヴァ書房、2001 年；）。また近年はこうした技能養成や労働力配置、労務管理政策を企業の市場戦略との関連で理解する研究が一つの有力な潮流をなしている（Howard F.(ed.), Managerial strategies and industrial relations：an historical and comparative study, Heinemann Educational Books, 1983；Schmidt, D., Massenhafte Produktion? :Produkte, Produktion und Beschäftigte im Stammwerk von Siemens vor 1914, Münster, 1993.）。

かつて松田智雄は西南ドイツの工業化過程を、西北ドイツのそれとの異同に止目しつつ、「農・工業の縺れ合い」のうちに「労働者農夫」が生成し、必ずしも離村を伴わず農業離脱が進行したとの展望を与えたが（松田智雄『ドイツ資本主義の基礎研究－ウュルテンベルク王国の産業発展－』岩波書店、1967 年）、農業・農村からの労働力供給が工業労働力形成に与えた影響については、低賃金・不熟練労働力の給源あるいは景気変動の調整弁といった見解が通説的位置を占めており、かかる評価に対する本格的再検討の作業は現在に至るまで行われていない。西南ドイツでも多様な高質品の生産が 19 世紀後半より生成・展開したとの知見（Loreth, H., Das Wachstum der württembergischen Wirtschaft von 1818 bis 1918, Stuttgart, 1974）に鑑みるならば、これと農業・農村からの労働力供給との具体的関連があらためて問われねばならい。

研究代表者は、これまで西南ドイツの「農・工業の縺れ合い」のなかから分出した中小産業経営の展開とその領邦政府による振興策について研究をすすめてきたが、上記の研究史上の問題を踏まえ、農業・農村構造が 19 世紀後半以後の近代工業の具体的展開をどう規定し、またそれが農業・農村の変容にどう関連したかを労働力市場・就業構造の側面から検証するとの課題を設定するに至った。

２．研究の目的

本研究は、「多様な高質品生産」に優位をもつとされる「ドイツ型生産体制」の形成過程を 19 世紀後半以降の西南ドイツを中心とする近代工業の展開のなかに見いだし、これと労働力基盤との関連を、労働者の技能・職

場態度・存在形態等を規定するところの農業・農村構造に止目しつつ、究明しようとするものである。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するために、次の 2 つの課題を設定し、ドイツの文書館史料も適宜利用しつつ、実態の解明を行った。

（１）小農制と強い結びつきをもつビュルテンベルクの亜麻織物業を取り上げ、亜麻織物の高質品化にむけた政策努力と生産者の存在形態および両者の関連を検討した。

（２）農村家内工業や都市手工業に歴史的発生基盤をもち、19 世紀末に世界市場で圧倒的な競争力を有するに至った産業の一事例として、玩具産業を取り上げ、玩具の主要生産国であるアメリカ合衆国、イギリス、日本との競争関係のなかで、高質品生産とそれを支える歴史的諸条件がいつどのようにして形成されたのか検討した。この課題においては、西南ドイツに限定せず、ニュルンベルクやザクセンのエルツ山地についても検討の対象に加えた。

４．研究成果

上記（１）の研究課題にかかわって、以下の成果が得られた。

①ビュルテンベルク政府の産業振興政策を担った「工商業本部」は、この地の小農制と結びついた農工複合経営を維持するため、農村の織布工に対する巡回技術指導、移動講習会、専門学校・養成作業場の設置、模範的機械・工具の購入補助金、近代的仕上技術の導入といった政策手段を動員して、亜麻織物業の振興に努めた。その際、手織工の物的生産性の改善をもたらす技術指導も行われたが、政策の基本線は手工的技術の高度化という方向であった。すなわち、工場制工業化がすすむ 19 世紀の後半に、模範工場の建設ではなく、粗製品・並物品から当時なお機械化が困難であるか、量産効果を発揮しえない流行品・高質品へと製品政策の転換を図り、そのために必要な手織工の技能養成などを行うという政策であった。

②他方、生産者の実態としては、僅かな農地を保有する半農半工の手織工が圧倒的で、その多くは手織からえられる所得も僅かな副業的生産者であった。また手織工の製織技術水準と技能向上に対する意欲は概して低いというのが実態であった。

③工商業本部は、こうした現実を前提に、僅かな家計補充を目的に亜麻織物業に従事する手織工に対しては、既存の並物品の物的生産性の向上に資する巡回技術指導を行った。そして経営発展に対する意志と能力を有する生産者および地域に対しては、流行品・高質品生産を奨励し、そのために必要な手織工の技能養成などを行った。その結果、ビュルテンベルクのいくつかの亜麻織物業地域で、手織技術の高度化と産地の発展がみられた。

西南ドイツの農村社会に特徴的な半農半工の生産者や労働者には、低賃金・低技能労働力という側面が確かに存在する。同時に半農半工であるがゆえに農村にとどまり、経営的独立性を維持しようと手工的技術の高度化に努める生産者や地域も存在し、産地として発展を遂げる事例も数多くみられる。工商業本部の政策努力は、主としてそうした生産者の自助自立のための取り組みにむけられた。

上記（２）の研究課題にかかわっては、以下の成果が得られた。

①第一次大戦前のドイツ玩具産業は、世界の玩具輸出の 7 割を占める圧倒的な玩具生産・輸出国であり、大衆市場むけの廉価品から高価格高質品に至るまであらゆる製品分野で国際競争力を有していた。

②第一次大戦後は、ドイツの敗戦と戦後の経済的混乱、世界的な保護主義の高まり、アメリカ玩具産業の輸入代替工業化、日本の玩具産業によるアメリカむけ玩具輸出の成功などにより、ドイツ玩具産業は世界市場においてその比重を低下させるが、その過程において家内工業を生産の主たる担い手とする労働集約型の産地（エルツ山地）でも、また資本集約型の発展を遂げた産地（ニュルンベルク）でも並物品生産の縮小と高質品生産の拡大がすすんだ。

③エルツ山地でも工場制工業化がすすまなかったわけではないが、産地全体としてはむしろ既存の家内工業体制が維持され、そのもとで製品の質的向上がすすみ、それを支える手工的技能および製品開発力の強化が目指された。ニュルンベルクなど資本集約型の発展を特徴とする産地・生産者の場合も並物品の量産ではなく、高質品の量産を拡大する傾向がみられた。

④ドイツの高質品生産とそれを支える技能養成制度は、19 世紀末以降産業競争力向上という目的と結びついて追求されるようになる。それは、手工業制度や農村家内工業のドイツ的伝統に起因するというより、直接にはドイツ国内における生産諸条件の変化（原材料費の高騰、低賃金部門の賃金上昇と協約賃金の普及）と世界市場における国際競争への対応の結果であった。国際競争への対応こそが高質品生産にむけた手工業、農村家内工業の展開と技能養成制度の強化をもたらした。

本研究で得られた成果には、次のような意義があると考えられる。

農村家内工業や都市手工業といった中間層の動態については、ドイツ社会政策学会創設以来、家内工業論、手工業没落論（あるい

はこれへの批判として繁栄論)、人口増加を背景にした窮乏化論、淘汰と適応論、最終消費財産業論など様々な見地から議論が重ねられてきた。しかし、これまでの社会史研究は中間層の動態をドイツ国内政治（社会保護主義的な中間層維持政策）の帰結ととらえる傾向が強く、また経済史研究においても、国内における工場制工業化の進展との関連で、中間層の衰退と繁栄が議論されてきた。

しかし、19 世紀後半から戦間期にかけての時代は、第一次グローバル化の時代とも称されるように、世界貿易の急速な成長がみられヨーロッパ内でも国際分業が深化した時代であった。中小の産業経営が担う加工・組立産業も世界貿易の成長の波にのり輸出産業として発展を遂げる産業を数多くうみだしており、家内工業や手工業の動態は国内の政治経済状況のみならず、国際的な競争関係にも規定されていた。

本研究の成果は、農村家内工業や都市手工業の高質品生産にむけた展開を、国際競争への対応という面から理解した点にあると考えられる。

今後は、工場制化の度合いが低く家内工業や手工業者を含む中小の産業経営が支配的な諸産業を労働集約型産業と捉え、その動態を国際的競争関係のなかに位置づけて、ドイツにおける「多様な高質品生産」の形成過程を明らかにしたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）

1. 森良次「第一次大戦前ドイツ玩具産業の発展と世界市場における位置」『広島大学経済論叢』（査読なし）、41 巻 1 号、2017 年（近刊）。
2. 森良次「シュタインバイスの産業振興政策論」『広島大学経済論叢』（査読なし）、36 巻 3.、137-154 頁、2012 年。

〔学会発表〕（計 3　件）

1. Msayuki TANIMOTO and Ryoji MORI ” Labour-intensive Industrialization in Global Competition ： International Rivalry in the Toy Business from the 19th to 20th Centuries” in EBHA World Congress on Business History in Bergen on August 26, 2016, Norway.
2. 森良次「第一次大戦前ドイツ玩具産業の国際的位置とニュルンベルク玩具産業の発展」政治経済学経済史学会中国四国部会、2015 年 5 月 23 日、岡山大学。
3. 森良次「西南ドイツ小農制と産業振興政策－リストからシュタインバイスへ－」政治経済学経済史学会中国四国部会例会、2012 年 5 月 19 日、岡山大学。

〔図書〕（計　1　件）

1. 森良次『19 世紀ドイツの地域産業振興－近代化のなかのビュルテンベルク小営業』京都大学学術出版会、2013 年、290 頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
森　良次（MORI　RYOJI）
広島大学・大学院社会科学研究科・教授
研究者番号：10333999

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）

World Congress on Business History in Bergen on August 25-27, 2016